

# 国語

## 出題の傾向

1次A・2次とも大問が3問です。【一】は物語(小説)から、【二】は自然科学や随想などからの総合読解問題、【三】は慣用句など言葉についての問題を出題しています。物語は基本的に「感動」をともなった「愛情」「友情」などを主題としたものから出題しています。

## 2018 今年度の出題と解説

全体として【一】・【二】では、「漢字の書き取り」「語句の意味」「擬態語・擬声語」「文法」「穴うめ」などの問題の他、「登場人物の心情」、「主題」を問う設問を必ず出題しています。また、記述の形で説明を求める問題もいくつか出題しています。【三】は、例年「言葉の知識」を出題しています。漢字のなりたちや意味・慣用句・ことわざ・四字熟語などが中心です。本年度は、1次Aで「慣用句」2次で「四字熟語」を出題しました。

それぞれの試験で、全体で約30問程度。レベルは1次Aより2次を少し難しくしています。全体的に見て、ふだんから文章を読むことに慣れていないのではないかとと思われる答案が多くありました。大まかにどのような話なのかさえも、つかみきれていないのではと思われる答案もありました。説明を必要とする設問で、ポイントを外してしまっていることでわかります。ふだんからいろいろな文章になれ親しんでください。小説や新聞など少しでもいいので、毎日文章に接することが大切です。その際、重要と思われる所に線を引きながら読み進めてみてください。試験でも同じことです。上宮の入試問題の【一】は、例年かなり長めの文章です。ポイントを探しながら読み進める方法をマスターしておかないと、試験中に2回、3回と読み返している時間はないと思います。長文全体をできるだけ早く正確に読むことが前提ですが、重要などころに線を引きながら読み進めることをマスターしておけば、正解を探すのに苦労はしないはずす。

説明をするときの文のしめくくりの言葉も、決まっています。ことがらについて説明するときには「～こと。」の形、理由を説明するときには「～から。」の形でしめくくりします。それらの言葉でしめくくらないと、「説明」をしたことにはなりません。これは基本的な知識です。その基本のできていない答案が目立ちました。注意してください。

また、漢字を正確に覚えていないと思われる答案も目立ちました。音だけが合っている当て字の解答が多く見られたのには驚かされました。ふだんノートを取ったり、文章を書いたりするときに、当て字を平気で使う生活をしていませんか。必ず漢字は意味もいっしょに覚えてください。漢字一つ一つには、それぞれ固有の意味があります。そしてそれらを組み合わせて一つの意味を表すのが熟語です。意味もいっしょに覚えなないと漢字を覚えたことにはなりません。また、形の悪い漢字も目立ちました。筆順をまちがっているのでしょう。漢字は筆順も大切です。特に筆順は書き取り問題では問うことはできませんが、筆順がちがうと、漢字の形が整いません。部首や画

数も意識して漢字を覚えていますか。部首も漢字の形に関係してきます。バランスが悪いと、別の部首の漢字に見えてしまいます。画数も意識をしながら漢字は覚えてほしいと思います。1画で書くべきところを2画で書いたり、また、その逆もありました。最初に教科書に出てきたときに、正確に漢字を覚えてください。最初が肝心です。最初にまちがえて覚えると、今後中学・高校と進んでいく中で苦労が増え、国語力が身につけにくいことになります。悪いくせは今のうちに直しておきましょう。

また、語句の意味を正確に覚えていないと思われる答案もかなりあります。ふだんからいろいろな文章を読んで、どうしてもわからない語句が出てきたら、めんどろがらずに辞書を引いてください。そのひと手間が、君たちの語句の知識を豊富にしていき、読解力の基本をつかっていくのですから。

非常に残念だったのは、設問の指示にしたがっていない答案が多かったことです。記号で答える設問なのに、言葉や漢字をそのまま書いてしまっていたり、指定した字数に足りていない答案を書いていたたりするなどです。字数の指定がある場合は、少なくとも8割をこえないと、まったく得点にはなりません。まずは設問をしっかり読んで確認をしてください。入試では、答えの内容が合っても指示に従っていない答案は、残念ながら得点にはなりません。せっかく答えがわかっているのに、指示に従わなかったばかりに得点にならないのはもったいない気がします。「文中のことばを使って」と「文中からぬき出して」のちがいも、しっかりと意識しておいてください。「～ぬき出して」とあれば、君たちが文章に手を加えてはダメです。書いてあるとおりに書き写すのが「～ぬき出して」であり、「～使って」とあれば、文中の語句をぬき出したものを、指示に合うように自分で工夫をするのです。これができていなくて、得点に結びつかなかった答案がかなりありました。

文法の設問は必ず出題しています。言葉のきまりも文章を読んでいくうえでの、大切な手がかりになります。毎年同じような設問を出していますので、過去問をきちんと勉強して、傾向をつかむことが大切です。

以上のことがらのすべてに共通して言えることは、「ふだんから言葉に出会ったときに、どのような意識でその言葉に接しているか」ということが一番大切なことです。言葉を意識し、言葉に敏感になって、普段の生活を送ってください。

それでは、具体的に入試問題を見ていくことにします。

### 【一】

- 問1 漢字の書き取りの問題です。全体で7割ほどできていました。〈あ〉〈い〉ともによくできていました。〈う〉の「予」「報」を正しく書けていない人が多くいました。
- 問2 表現を問う問題は、よく出題されています。「まるで……のようだった」という表現から、答えがわかります。
- 問3 四年生の先輩が「眞家、頼んだぞ。」と言葉をかけ、「強く肩をたたいてきた」ことから、チームのために頑張してほしい気持ちがうかがえます。7割ほどのできでした。
- 問4 A～Dともによくできていました。文のつながりに着目すると、答えが見つかります。
- 問5 漢字の知識を問う問題です。「無」をつけて熟語になりそうなものが他にないことはすぐに分かります。正解は8割を越えていました。
- 問6 Xの少し前にある、「花をもたせる」という慣用句の意味が分かっていないためか、誤答が目立ちました。藤宮の「そんなことをしてみろ」の「そんなこと」の指し示す内容を考えると、答えが見つかります。
- 問7 駅伝競走に出場している走者が、走る直前にどのような心の状態であるのかを考える問題です。傍線部④の十行前にある「藤宮の硬い表情」などから、選手たちの緊張感やレースに集中しようとする様子を読み取ることができます。
- 問8 語句の意味を問う問題です。傍線部の前後の言葉をヒントに答えを探しましょう。b「物心ついた」について、「エ」の誤答が目立ちました。
- 問9 傍線部⑤の3～4行後にも、兄の数々の欠点が示されており、それらの欠点(＝短所)は「すべて走ることの対価として与えられているように思えた」という言葉に注目しましょう。質問の意図をつかみきれていないこともあり、「リーダーシップ」や「つまらない人間」などの誤答がやや多かったです。
- 問10 「こちらの心」とは、春馬の兄だけが見る世界を見せてほしい気持ちを表しています。直前に答えがあるためか、大変よくできていました。
- 問11 「春馬の気持ち」について読み取る問題です。本文の終盤にある兄の背中を見て走ることに楽しみを感じ、いつかは兄を追い抜いて

やるという「春馬の気持ち」に注目しましょう。中には漢字のぬき出しミスがありました。

### 【二】

- 問1 書き取りの問題です。〈あ〉「象」を「像」と書いてしまう誤りが目立ちました。また、〈う〉「球根」を正しく書けていない答案もありました。
- 問2 「ない」の働きを問う問題です。①の「ない」は「目立つ」を否定しています。それと同じ「ない」を「ぬ」に変えられるものを探します。あまりできていませんでした。
- 問3 つなぎ言葉の問題では、空らんの前後の内容に注目すると、入る言葉が見つかります。全体としては、5割程度のできでした。
- 問4 ヒガンバナがお墓の周りに植えられた理由については、そのすぐ後に書かれています。そのためか、大変よくできていました。残念ながら、ぬき出しミスが少しありました。
- 問5 漢字の成り立ちを問う問題です。上の「墓」の漢字と下の「地」の漢字の関係を考えれば、答えが分かります。なぜか「ウ」の「死亡」と答えた受験生がやや多かったです。
- 問6 「横並びの競争」については、他の植物とのどのような争いを指すのかを考えます。すると 傍線部④「横並びの競争」の2行前で「生育場所をうばい合う」争いであることがわかります。7割ほどのできでした。
- 問7 Yの直前にある工夫をすることである可能性が生まれることが書かれています。ここでは、協力する大切さではなく、創意や工夫をすること大切さに気づきましょう。
- 問8 10ページの本文の後半に述べられた内容から、きびしい世界でも、工夫をすることによって、他の植物と競争をせずに繁栄してきたことが述べられています。「イ」の共存してきたを選んだものが多いいました。文章をしっかり読めば、「ウ」の競争を避けてきたことがわかります。

### 【三】

慣用句やことわざを問う問題です。知っている人と知らない人の差が大きく出たようです。日ごろから慣用句やことわざ・四字熟語などについては、しっかり学習しておきましょう。

## 対策と アドバイス

とにかく、過去問をできるだけ多く解いて、上宮の入試問題に慣れておくということです。そして語句の意味や漢字・慣用句といったものは、常日頃から意識して身につけていかないと、なかなかテストで答えられるようにはなりません。できるだけ早い時期に上宮受験を決めて、対策を始めてください。